

まちの話題

「養父市産業フェア2010」開催

11月6日、7日、県立但馬全天候運動場で「2010養父市産業フェア」が開催され、両日で約9,800人が会場に訪れました。

同フェアは、地元産業の活性化を目指し、養父市内の農業、商業、観光、林業の分野から61の企業や団体の出展。各ブースでは、それぞれの事業紹介などが行われ、来場者は熱心に説明などを聞いていました。

また、同フェアでは養父市で考案中のB級グルメの試験販売も行われました。この日は、1次審査を合格した「つけめん」「焼きそば」「おにぎり」の3点が各50食ずつ販売され、大盛況のうちに完売となりました。

さらに、11月7日には、養父市とJAとの共催で「養父市食育フェア」が開催され、養父市産の食材を使った「おむすびコンテスト」が行われました。

「はさまじ里山の森」がプレオープン

11月3日、堀畑の県畜産試験場但馬分場地跡に市が整備していた公園「はさまじ里山の森公園」において、グラウンドゴルフコース2面とトイレなどが完成し、プレオープンを迎えました。

同公園は、3面のグラウンドゴルフ場を中心に、多目的広場や里山などを整備し、完成すれば、近畿でも最大規模のグラウンドゴルフ場になります。

また、同日には「第13回やぶさざんかカップグラウンド・ゴルフ大会」も開催され、地元のグラウンドゴルフの愛好家約200人が青々とした芝生の上で競技を楽しみました。

主な結果は次のとおりです。団体優勝Ⅱ大藪Aチーム、団体準優勝Ⅱ諏訪クラブ、団体第3位Ⅱスカイクラブ

同公園は平成23年度完成予定ですが、当面は試用期間として施設の無料開放も行っています。



青々とした芝生の上でグラウンドゴルフを楽しむ参加者



たくさんの来場者で賑わった産業フェア



最優秀賞の「肉みそにぎり」を手にする小野山さん(左)と田村さん(右)

この日は、応募数32点の中から、書類審査で合格した9点が持ち寄られ、養父市特産の「朝倉さんしょ」や但馬全域の特産「但馬牛肉」「たじまビーマン」などを使った工夫あふれるおむすびが並び、味やアイデア、見栄えなどが審査されました。審査の結果、但馬牛肉と地元で取れたネギ、自家製の味噌を使った、小野山節子さん(養父市森)の「肉みそにぎり」が最優秀賞に輝きました。

このおむすびは、いずみ会養父支部の森地区に住む7名で考案されたもので、小野山さんの代理で出席した田村きをさんは「使うネギと味噌の配分など、試行錯誤を重ねてきた工夫が評価されとてもうれしいです」と話してくれました。

「第一回山田風太郎賞」受賞作品決定

「第一回山田風太郎賞」の受賞式が11月24日、東京で行われました。

この賞は、角川書店主催により、養父市関宮出身の作家、山田風太郎さんの独創的な作品とその作家的姿勢への敬意をもとに、有望な作家の作品を発掘するために、角川三賞の内の一つとして、今年から新設されました。

「山田風太郎賞」は、新人、新進、中堅作家の作品が対象で、ミステリーや時代小説、SF小説など様々な分野の中から、毎年刊行された小説で最も面白いと思われる作品に贈られます。

第一回受賞作の選考委員は、赤川次郎さん、京極夏彦さん、桐野夏生さん、重松清さん、筒井康隆さんの5名で、選考の結果、貴志祐介（大阪府出身）さんの『悪の教典』に決まりました。

今後この賞は続きます。山田風太郎さんの作品とともに、受賞作品を読んでみてはいかがでしょうか。



熱のこもった演技をする歌舞伎クラブのメンバー

「せきのみやこども歌舞伎」公演

小中学生による「せきのみやこども歌舞伎」の第8回公演が11月27日、関宮公民館ノビアホールで行われました。

約400人の観客が集まり、立ち見ができるほどの満席の中、せきのみやこども歌舞伎クラブの12人が約半年間かけて稽古をしてきた、日本舞踊や歌舞伎の舞台を堂々と演じました。

この日は、口上に始まり、「胡蝶」「藤娘」「汐汲」の日本舞踊3曲と、女忠臣蔵とも呼ばれている「鏡山旧錦絵」の歌舞伎が演じられ、幼くもしっかりとした踊りや演技で表現され、会場を沸かせていました。

また、こども歌舞伎は28日、初めて市外での公演を「出石永楽館」で行い、こちらの会場でも大盛り上がるの公演となりました。



第一回山田風太郎賞を受賞した貴志祐介さん

拝啓 市民の皆様

この10月4日に鳥取、兵庫、京都にまたがる山陰海岸が、世界ジオパークネットワークの加盟認定を受けました。全国、世界から多くの人に来ていただき、地域の活力を高めることが求められている但馬にとって画期的な出来事となりました。養父市においても、この効果を観光振興に生かすため、関係各市町との更なる連携を深めていかねばなりません。いよいよ南但馬の出番がきたか、との感を強くしています。

ジオパークに続く但馬の宝は、何といても明延・神子畑・生野とつながる鉱山遺産、産業遺産群です。日本が国としての形を整えはじめた約1200年前から、その時代時代の要請に応え貴重な鉱石を産出。明治以降も国内のスズや銅の主要産地として、日本近代化を支えてきました。明延・神子畑・生野は、鉱石を運ぶ道「鉱石の道」によって結ばれ、地域を大いに栄えさせました。今でも鉱山跡地を訪れると、往時の面影がここかしこに息づいているのを感じます。

11月21日生野町で、兵庫県・養父市・朝来市が連携し、鉱石の道「産業遺産サミット」を開催しました。その中で、南但馬の地域活性化、世界文化遺産登録に向けた取り組みを国民全体の運動として広げていくことを確認しました。交流百50万人を目指す養父市にとって、大きな転機になると期待しています。

早いもので今年も年の瀬を迎えました。一年間のご協力で感謝申し上げますとともに、良いお年をお迎えされるようお願い申し上げます。

市長 広瀬 栄